

東北日日新聞

刊休無中... 東北日日新聞

至急募集 營業局員一名

町民よ、町長改選町會を 嚴重に監視せよ!

青沼氏推薦果して是か?

伏見氏再選何が故に非か?

大平町の行政支配権を持つ町長の改選は近づく... 現町長伏見氏再選説、青沼氏推薦説...

適任だ

助役に適材を 求めるが至當

町長改選問題について某識者の感想を聞く

青沼氏の推薦反對

伏見氏擁護運動!

青沼氏推薦反對、伏見氏擁護運動を起す

磐銀休業延期

休業中の磐城銀行は二十

花合團檢舉

生れ平町驛前某旅館番頭長

泥御用

石城郡好間村居住野地勘藏(八二)

ボスト (投票歓迎)

平町長の問題は、買収や縁故関係によつて當選した一部町會議員の手によつた

筆洗ふ前に

鉛色の空は重くたれて、夕時はヒタヒタと迫る。

平町現町長伏見氏再選説は、手腕が未知数の者を撰ぶよる二十四日を以て任期が満了する

町長として何等の過失のななく立派な功績があつて、伏見氏を任期が経つたか

青沼氏推薦派は現助役を退職させ其の跡に伏見氏を据へると云ふ案である、之れは如何にも伏見氏を侮辱し

平町長の問題は、買収や縁故関係によつて當選した一部町會議員の手によつた

林説

色洞講

炊骨庵

(四)

「結ばれし思ひを人に結びあまき露骨でなく淫蕩氣分もせて、未だうら若き洗髪の充滿してゐるのは歌澤でやがて入れたきピン指もさ能六齋の稽古本の中から二して嬉しきユウガイのむく毛かわゆき額口、含睡にぬらせし元結の縮めて結んでの音ちよと手を取り腹槽、×××と解けて流れし水油四十八手も取りつくしエ、われはもとよりツゲの櫛はモシ場所があるではないかつかしい程ア、よくてならいな。」

「二人が仲をお月さん、そ洗練された文と云ひ、かけれを粹なるおぼろがけ、吸言葉と云ひ實に申分がないいつけ莫の火明りに話も更之れは一妙開程芳の筆になつてぞつと身に夜寒の風の「玉匣」の序文にある端 必々とエ、じれつたいのも唄で當時有名な國學者の戯口の肉作と傳へられてゐる。次に



△殺人往來▽  
原作 西池春之助  
監督 吉本清濤  
主演 尾上華丈  
嵐 瑞左工門  
久米 讓  
衣川 光子

先生の臨終だぞ歸つて来い...と友人が彼を連れて行くふと彼は立たない酒に酔ふて愛妓の膝に寝てゐる友人は無理に連れて師の元に歸つた師は正流秘法の術理と心境を説き聞かせた一度正しい道にかへつた彼もふたたび狂ひ出した正流秘法の剣法に觸るるものを皆断つて行く怒る可き劍摩の往來

皆様が求めるごんらる三映畫

白製靴... 値下断行  
於全國靴工競技會... 賞状 受領  
國産獎勵博覽會... 金牌  
現代式の形と製法  
斯界の代表 大塚の靴  
製靴部 運動具部  
電話七〇二番

廿一日替り

白井權八

お若け...の御待ちなせへ...待てとお止めなされしは身共の事で御座るかな...! 林 長一郎... 獨得

◎日活現代派熱血篇!  
高木永二 瀧花久子 島耕二  
坑山 光

某炭坑に突如出水した幾百名の命は坑内に断たれかんとしてゐる... 地下の犠牲よ此の映画によりて手向の花にかへよ... 大河内傳次郎 梅村蓉子

天野屋利兵衛

義と打てば忠と響く元祿快擧の其の裏にはこうした血涙史がある...?

舊十七回 通 平館 六六四番

二十一日替り... 封切!

見よ他の追従を許さぬ雄篇揃!

帝キネ現代劇小島洋々 歌川八重子 主演  
珍妙結婚記

大帝キネ特作 松本三郎 中村小福 主演  
白暴

松井鶴子 助演

フオックス特作  
アイアンホース 十三卷

マキノ小品集の巨篇 片岡千恵藏熱演  
仇討世相録

松浦築枝 荒木忍 助演

休憩奏樂 1 アラビヤの唄、 3 波浄の港  
2 佐渡のオケサ節、 4 浅草行進曲

テノール家 島津正之獨唱 有聲座

移店開業

流行の春を迎ゆる新形の模範店

影山洋服店

紺屋町通り

内外果實、内外酒類、内外罐詰

藤居クダモノ店

平驛前通り 電五四三番

祝創刊

平町西洋料理業組合  
健康保險共濟會

印刷物一般の

御注文は安く良く速く

本社印刷工場に御用命を願います  
東北日日新聞社印刷部

通人食堂

煮込みおでん  
江戸茶めし酒  
梅月

これぞ本當の江戸ツ子おでん  
常磐銀行隣の小さな店です